

News Letter



Vol.3
June
2022

[Contents]

1 --- Pick up

2021年度「兵庫医科大学 女性医師・研究者顕彰」
授賞式 & FD・SD講演会 ほか

2 --- News&Topics

インタビュー 兵庫医科大学 女性医師・研究者のいま
消化器外科学(肝・胆・膵外科) 主任教授 廣野 誠子 先生

《 Pick up 》 3月17日

2021年度「兵庫医科大学 女性医師・研究者顕彰」授賞式 & FD・SD講演会

本学では、研究や教育活動において優れた業績をおさめた女性医師・研究者を対象とした顕彰を創設、このたび2021年度の授賞式を執り行いました。ダイバーシティ推進室 飯島 尋子 室長による本顕彰の趣旨説明のち、ダイバーシティ推進本部長 野口 光一 学長より、受賞者7名に表彰状と記念盾が手渡されました。続いて、代表者3名によるスピーチがあり、最後に野口学長からお祝いの言葉と講評がありました。

コロナ禍におけるハイブリット形式での開催の中、関係者等多くの出席があり盛況な会となりました。なお、受賞者全員のサマリーは、ダイバーシティ推進室公式HPに掲載しています。

また、授賞式後の第2部では、長崎大学 理事 伊東 昌子 先生による講演会「研究力向上と働き方見直し ～長崎大学ダイバーシティ推進センターの活動～」を開催しました。長崎大学が取り組んできたダイバーシティ推進の中で、医局での働き方の見直し、それによる論文数増加などの研究力向上の効果についてなど、大変興味深い内容の講演となりました。



キャリア支援センターからのお知らせ

▶ 相談窓口の設置

医師・研究者の皆さんが安心してキャリアを実現できるよう相談窓口を設置しました。仕事と生活の両立、ライフイベントによるキャリアの中断、リスタート支援等、お気軽にご相談ください。まずは専用の相談フォームより申込、相談内容に応じ、キャリア支援センター教員や担当者が面談・メール等で対応いたします。なお、ご相談内容や個人情報に関しては、秘密厳守いたします。

[相談フォームはこちら▶](#)



▶ ダイバーシティ文庫

ダイバーシティ、働きかた、キャリアアップ等に関する書籍の貸出しをしています。教職員はどなたでもご利用できます。貸出状況はメールでお問合せください。

▶ 「働きかた・キャリア支援ハンドブック

～多様な働き方を応援します～」を発行

育児・介護・病気療養・メンタルヘルスに関する学内・学外の支援制度やキャリア支援センター業務など、教職員が安心して働く為の情報を一冊にまとめました。キャリア支援センターおよび総務課入口のラックより、ご自由にお取りください。



セミナーレポート

1月13日

講演会「医師の働き方改革～現状と課題」

医師の働き方改革の先駆者である熊本大学の馬場秀夫先生を講師に迎え、時間外労働の管理や、医師の事務作業軽減のためのメディカルアシスタントの活用など、熊本大学での取り組み紹介、また、労働時間を減らすためには、職場の意識改革や患者・その家族の理解が不可欠であることなどをお話いただきました。医師の働き方改革が喫緊の課題となる中、多くの教職員等が参加して活発な質疑が行われ、関心の高さを感じました。

3月9日

セミナー「医療者としてのあなたのキャリアプランは？」

長崎大学病院 医師育成キャリア支援室 室長 松島加代子先生による、若手医師・研究者を対象としたセミナーを開催しました。アンコンシャスバイアスや、自分と相手の性格を4つに分類したタイプ別コミュニケーションの取りかたなど、若手だけでなく指導する立場の教職員にとっても参考になる内容でした。



インタビュー 兵庫医科大学 女性医師・研究者のいま 消化器外科学(肝・胆・膵外科) 主任教授 廣野 誠子 先生

2022年1月、本学初の外科分野における主任教授に就任された廣野 誠子 先生は、ご家族が癌で闘病されたことから消化器外科医を志されたそうですが、ご自身曰く、末っ子の甘えん坊で、子どもの頃は飽きっぽい性格だったそうです。今回は、女性医師・研究者として後輩へ伝えたいことや、働きやすい組織づくりなどについてお聞きました。

医師としてのやりがい

肝胆膵外科を専門にしてからは、手術手技のみで評価される日本肝胆膵外科学会の「高度技能専門医」を取得した時は本当に嬉しく、より高難度な手術手技の向上に邁進しようと強く決意したことをよく覚えています。

また、日々の診療や研究成果を論文化することも非常に重要だと思っています。ひとりの外科医が治療に携われる患者数には限りがありますが、自分たちの治療や研究の成果を論文として一流誌に報告すれば、開発した手術手技や新規治療法を世界に発信でき、賛同された先生方が同じ治療を行うことで、世界中に広く普及できる機会となります。論文がアクセプトされると、大きな喜びとやりがいを感じます。

診療と研究を両立するために

私は、卒後5年目で大学院に進学し膵癌の遺伝子に関する基礎研究を行いました。この基礎研究に没頭した3年間で学問の進め方や研究マインドを培うことができ、その経験が診療や手技の向上、臨床研究に活かされています。これから外科医を目指す先生方には、大学院に進学し一定期間しっかりと研究されることを勧めます。

臨床研究はベッドサイドの素朴な疑問を解決し、新しい手術手技の有効性を証明するために行う研究で、医療に大きな貢献をもたらします。ですが、日々の診療の中で、時間も労力もかかる臨床研究を遂行するためには、「この研究を必ずやり遂げて医療に貢献するんだ」という鉄の精神力をもって取り組まなくてはなりません。臨床研究には患者さんのご協力が不可欠で、その分、明日の診療に役立つ研究成果をあげなければならないという責任感も重要です。私はこの教室で、仲間と共に多くの研究成果をあげていきたいと考えています。

ジェンダーギャップについて

某人気ドラマの影響か、最近は「外科医は男性」という固定観念はなくなりつつありますが、私が若手の時には、まだ女性外科医に対する偏見があったように思います。患者さんから「女の主治医ですか」と言われ傷ついたこともありましたが、私の教室には女性の先輩や同僚がいて、共に頑張ってくれました。また、上司からは、男性と全く同じように、診療、研究、教育のあらゆるチャンスを与えていただき、非常に恵まれた環境で成長することができました。次は私が責任者として、教室の先生方を全力で支援していきたいと思っています。

誰もが活躍できる組織づくり

全ての先生が活躍できる組織にするために、大事なことが2つあると思います。

ひとつは、「助け合いの精神」です。例えば、ライブイベント中の仲間がいたら、教室全員がその大変さを理解し、積極的に仕事を手伝ったり、代わってあげて助けること、また本人も助けてもらっていることを認識すること、そうして全員が協力しあえる温かい教室を作ることが私の使命だと思っています。

もうひとつは、労働時間の短縮です。外科医にとって、手術手技の向上にかける時間はキャリアアップに必要不可欠です。そこで、他の業務を見直し、現在、教室では3チーム制による病棟管理をしています。今後はさらに効率よく、完全当番制を目指しています。このような働き方改革を進めることで、「きつい」「しんどい」という外科医のイメージが改善され、また教室の先生方の余暇の時間が増加し、活気のある教室になると信じています。

学生や若手医師へのメッセージ

今年度、兵庫医大入学生女性の比率は58%と高く、これは、本学のみならず全国的にも女性医学生の割合が増加している表れと感じます。女性は手先が器用でコミュニケーション能力が高い方が多く、外科医に向いていると思いますが、もし「興味はあるけれど、女性なので外科医は諦めよう」と思うなら、それは絶対にしてほしくありません。女性でも男性でも、興味をもった道を進んでいただきたいし、そのために何か壁があるならば、ぜひ私にご相談ください。一緒に考えて解決策を見つけないかと強く思っています。私の教室は1号館の11階にあり、いつでもドアを開けています。

昔から憧れていた兵庫医科大学の一員に選んで頂けたことに心から感謝しています。これからは、優秀な若手医師の育成、そして教室と大学の発展に、全力で取り組んでまいります。



(聞き手: キャリア支援センター)

長時間にもかかわらず、丁寧にひとつひとつの質問にお答えいただきありがとうございました。他にも留学時代に感じたことやオフの過ごし方など、興味深いお話が多く、公式HPに全文を掲載の予定です。ぜひご覧ください。

編集後記

海底火山の噴火の影響で冷夏が心配されていた今夏ですが、すっかり例年並みに暑くなってまいりました。たくさんの方のお力添えをいただき News Letter vol.3 を発行することができました!インタビューや、原稿の作成にご協力いただいた皆さま、本当にありがとうございました。筆者は早くも夏バテ気味ですが、皆さん熱中症に気を付けて、夏を満喫してくださいね。

発行

学校法人兵庫医科大学 ダイバーシティ推進室
〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1番1号
Tel: 0798-45-6428(直通)
Email: danjyo-kyodo@hyo-med.ac.jp
URL: <https://www.hyo-med.ac.jp/corporation/about/activity/diversity/office/>

